



役に立つ!

医療
情報

Doctor's Report

ドクターズ・レポート

VOL. 11

「当院での下肢静脈瘤治療について」

豊見城中央病院 心臓血管外科 島袋 伸洋

はじめに

下肢静脈瘤は2014年に新しい下肢の血管内治療（レーザー治療）が保険収載され、手術自体がより簡便になることで、クリニックでの日帰り治療が可能となりました。多くの施設で治療が可能な病気となり、テレビなどでも放映されるようになりました。しかし、下肢静脈瘤の治療は昔から行われている治療法が必要な時もあり、患者さんの病態や静脈瘤の形態によって治療方法を選択する必要があります。今回は、当院での下肢静脈瘤の治療について話をします。

下肢静脈瘤の種類について

下肢静脈瘤には種類があります。具体的には、クモの巣状・網目状静脈瘤と側枝型・伏在型の静脈瘤です（図1）。この2つは大きく異なります。クモの巣状・網目状静脈瘤は審美的な問題はありますが、体には悪い影響が生じることはなく、年齢と共に増え



伏在型静脈瘤

図1

る傾向があり、基本的には医療上の治療対象とはなりません。よく、治療をしましょうと言われる静脈瘤は後者の方です。また、両方が混在することもあります。両者の医学的な違いは、大伏在静脈・小伏在静脈という血管に逆流が有るか、無いかということになります。それは下肢超音波検査でわかります。

治療が必要な下肢静脈瘤とは

下肢静脈瘤の側枝型・伏在型の静脈瘤は体の表面にポコポコとした静脈が認められます。したがって、治療が必要な静脈瘤とは、ポコポコとした静脈瘤を認め、症状が出現し、その症状が気になる人となります（最終的には下肢静脈エコー検査で血管の逆流を確認します）。症状とは、むくみやだるさ、痛みやかゆみ、こむら返りがひどい、皮膚の色づきや傷などです。全く症状がない人は治療をする必要はありません。見た目が気になるため、静脈瘤を無くしたいのであれば、治療対象となります。上記症状が軽度であり、日常生活に問題ない、もしくは気になる程度であれば、治療は急ぐ必要はありません。傷や皮膚に色がついている人は早めの治療をおすすめします。

下肢静脈瘤の治療方法

下肢静脈瘤の治療方法には下肢静脈瘤血管内焼灼術（レーザー治療）、ストリッピング術、硬化療法、圧迫療法（弾性ストッキング・弾性包帯）があります（図2）。

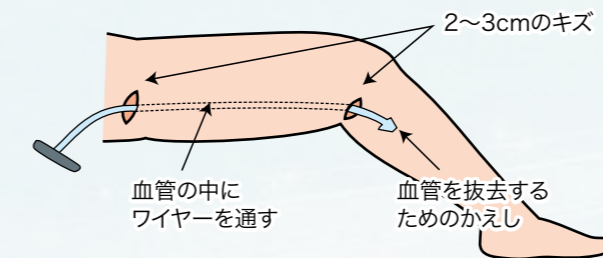
■下肢静脈瘤血管内焼灼術

現在、広く行われている治療方法です。針を穿刺し、カテーテルという細い管を血管内に挿入し、血管の中を焼くことで、血管を閉塞させ治療します。針を穿刺するだけの治療のため、患者さんにとっても苦痛が少なく、クリニックでも広く行われております。当院でも保険収載された2014年から施行し、現在では主流の治療方法となっております。問題点としては、残存している血管の再開通や、内腔から閉塞させるため血栓症のリスク、後述するストリッピング手術と比較して新しい治療のため数十年以降の再発が不明確なことが挙げられます。

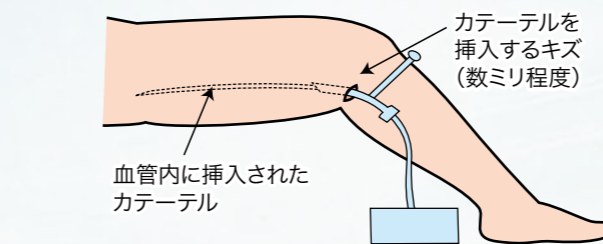
■ストリッピング術

ふるくから施行されてきた手術です。血管内焼灼術と異なる点は数cm皮膚を切開し、原因となる血管を体外に引っ張り出し、血管を体からなくす手術で

[ストリッピング手術]



[血管内治療]



[硬化療法]

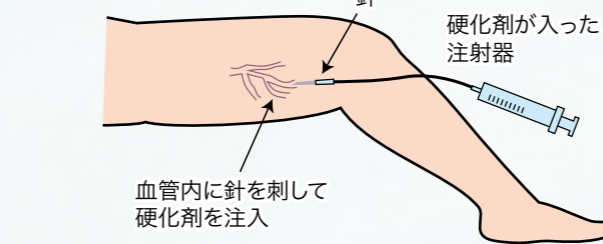


図2

す。歴史ある手術のため、治療成績は安定しておりますが、一定の技術や機材が必要なため、クリニックで行っている施設は少ないです。当院では血栓症のリスクが高い人や若年で長期的な成績を担保しなければならない人に施行します。傷に関しては、目立たない部位を切開するためほとんどが問題となりません。

■硬化療法

薬を静脈内に投与し、血管を閉塞させる治療方法です。ヨーロッパなどで数多く行われております。切らない手術と言われることもあります。簡便であり、数分で治療が終了となりますが、再発率が高いため、通常の静脈瘤に施行することは、ほとんどがありません。血管内焼灼術やストリッピング術後の部分的な再発や残存している静脈瘤に対して行うことが一般的です。当院でもそのように施行しております。

■弾性ストッキング・弾性包帯

下肢静脈瘤を治す治療ではなく、あくまでも症状を緩和するための道具です。しかし、その種類は多数あり、ドラッグストアで市販されているものから、医療用とされるもの、圧迫圧が異なったり、丈が異なったり、素材が異なったり、選択幅が多くあります。また、潰瘍病変や色素沈着がある場合は必須の治療でもあります。当院では患者さんと相談しながら、その病態にあった弾性ストッキング・包帯をすすめております。

最後に

下肢静脈瘤は、怖い病気ではありません。数十年ほっといても全く問題ない人も多くおり、本来であれば手術が必要ない人もいます。逆に、これは早めに治療を行った方が良かったという人もいます。下肢静脈瘤でお悩みの方、相談したい方がいましたら、一度当院心臓血管外科にお越しください。